

平成31年度 立川市立第十小学校 授業改善推進プラン

1. 授業改善の視点

本校では、教育目標の「考える子」を重点とし、基礎的基本的な内容の定着を図ることにより、学力の向上を目指している。

今年度の5年生『児童・生徒の学力向上を図るための調査』（東京都）の結果では、全教科とも思考を問われる問題に課題があることが分かった。算数では、方法や理由を言葉や数を用いて記述する際、場面の状況や問題の条件に基づいて、必要な事柄を過不足なく記述することや、理科での実験観察を整理分析した上で考察し、説明することなどには、特に大きな課題が見られた。

これらの調査結果から、本校では「基礎基本的な学力」を身に付けるとともに、「互いに考えを伝え合い、自分の考えを深められる」ことを通して学力の向上を更に図っていきたい。

そのために各教科の指導において、対話的活動を取り入れた授業を校内研究のテーマとして展開し、課題に対して、正確に情報を選び、自分なりの考えをもち、意見や考えを交わすことで自らの考えを深められるようにする。また、考えたことを丁寧に表現していくことを重点に授業を改善していく。

2. 授業改善の具体的な取組

☆これまでも取り組んで来たこと ★新たに、またこれまで以上に取り組むこと

	指導上の方針		具体的な授業改善策
全教科	主体的に学び、対話的活動を通して互いに考えを伝え合いながら、課題解決ができる力を身に付けさせる。	全学年	<ul style="list-style-type: none"> ☆各教科で「自分の考えを伝え合う」場面を意図的に設定する。 ☆自分の言葉でまとめ、考えを発表する経験を重ねていく。 ★児童同士の考えの伝え合いを促すために、課題設定を工夫していく。

【国語】

指導上の方針		具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 言語活用能力を育てる。	全学年・低学年	☆朝の時間や給食はじめなど短時間でも本を開くことを促し読書の機会を充実させる。	☆学校図書室の整備。
2 「書く力」を育てる。		☆書き順の原則をしっかりと教え、繰り返し漢字指導を行うことで定着を図る。	☆既習漢字を使った日記や連絡帳の記述。
		☆多様な文型や言い回しを身に付けさせる。	☆教科書の題材に沿って文法の基礎を繰り返し指導し、定着させる。
	高学年	☆わからない語句はその場で国語辞典を引くようにさせる。	☆国語辞典を身近に置き付箋を貼って活用する。

		★想像力をかりたてるテーマを設定し、書いて表現する機会を増やす。	
3 「語彙力」及び「言語感覚」を豊かにする。	全学年	☆各单元の中でポイントとなる言語事項を取り上げて繰り返し指導し、言語感覚を広げる。 ☆学習した言語事項を文の中で活用できるように繰り返し指導する。	☆学習内容が普段から見られるように掲示したり、プリントで繰り返し練習したりする。
4 論理的思考力を伸ばす。	全学年 ・中 ・高学年	☆単元のねらいに合わせ、読み取る技能を指導する。 ・キーワードの抜き出し ・文章の要約 ☆目的や意図に応じた必要な情報を正確に取り出し、取り出した情報を比較、関連づけ、理解し、条件に即して表現する指導を計画的に実施する。	☆ 全学年 ・スピーチの充実 ・日常生活において、単語でなく文での会話を定着させる。 ☆調べ学習を取り入れ、まとめる力を付ける。
5 「伝え合う力」を身に付けさせる。	全学年	☆ねらいに応じた人数のグループでの話し合いや交流活動を取り入れる。 ☆書いたことを基に伝え合う活動を設定し、ICTを活用して友達と意見交換するなど自分の考えと比べながら話し合いに参加できるようにする。 ☆再考する時間を設定し、交流したことで自分の考えがどう変化したかを振り返る。 ★お互いの文章を読み合い、優れたところを見つけ、認め合う。	☆環境作りの工夫 ・話し合いの話形 ・声のものさし ・文型や言い回しの掲示 ☆全学年で、スピーチ活動を取り入れ、自分の考えが相手に伝わるように話す力を培う。 ・理由・事実・意見 ・感想・気持ち ★付箋等で、ポイントとなる部分を見つけ、明確になるよう活用する。

【社会】

指導上の方針		具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 社会的な思考力・資料活用能力を伸ばす。	中・高学年	★グラフなどの資料が示している事は何か、どのように変化しているかを確実に読み取ることができるように、グラフなどの資料を読み取る活動を行う。また、変化から背景にある社会的事象を「思考・判断・表現」する活動を行う。 ☆自分の考えや単元のまとめを	☆映像資料などの副教材、テレビ、インターネットなどの視聴覚教材を積極的に取り入れ、必要な情報を正確に取り出せるように疑問を投げかけ、多様な見方をもてるようにする。 ☆資料の読み取りを中心

		文章で書かせ、説明させたり交流させたりして、考えを共有する活動を行う。	に据えた授業を適宜取り入れ、取り出した情報を比較・関連付け・総合して考える活動を設定する。
2 基礎的基本的な内容を定着させる。	中・高学年	<p>☆地名や四方位、地図の見方、産業の特色、国土、歴史、政治、文化に関する基礎的な内容について繰り返し取り扱い、定着を重視する。</p> <p>★資料から読み取った内容と既習事項を結びつけさせて考えられるようにする。</p>	<p>☆ICTを活用し、くり返し学習する機会を作ったり、地方別に覚えさせたり、都道府県名を答えるクイズを作らせたりして、興味関心を高める。</p> <p>☆体験活動を取り入れ、より理解や興味を深める工夫を行う。</p>
3 社会認識を深めさせる。	中・高学年	<p>☆自分の課題についてまとめふりかえることを毎時間行う。</p> <p>☆ICTを活用し、友達と意見交換するなど、多様な考え方に触れる機会を設定する。</p> <p>☆立川市民科を意識し、地域の店調べなど、日常生活との関連を図る。</p>	<p>☆興味のある地域、人物、事柄について、さらに詳しく発展的に調べる活動を取り入れていく。</p> <p>☆身近な教材の提示や地域の人材の活用など、自分との関わりが感じられる学習を効果的に位置付ける。</p>

【算数】

指導上の方針		具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 基礎的基本的な学習内容を定着させる。	全学年	<p>☆具体物を活用する。(カード・ブロック・おはじきなど)</p> <p>☆量と測定、図形では特に具体物を活用する。</p> <p>☆自分の考えを表現する時間を確保する。</p> <p>☆東京ベーシックドリルに取り組み、基礎を身に付けさせる。</p> <p>☆個別指導や放課後算数教室等で補習体勢を整える。</p> <p>☆導入で前時までの学習内容を想起できるような資料を提示する。</p>	<p>☆ICTを活用し、視覚的、体験的に理解ができるようにする。</p> <p>☆長期休業中においては、必ず既習領域の復習を課題とする。</p> <p>☆導入で振り返りの時間をもつ。</p> <p>☆地域未来塾における補習教室で、発展的な学習の機会を確保する。</p>
		<p>☆問題解決的な学習方法を定着させる。</p> <p>☆数直線、図、表を日常的に活用する方法を定着させる。</p>	<p>☆解決方法や自分の考えを書いたり、発表させたりして、児童同士の交流する場を増やす。</p>

<p>中・高学年</p>	<p>☆グラフ等から目的に応じた必要な情報を取り出し、取り出した情報を分析して表現し、読み取った内容を論理的に判断し、解決する指導の充実を図る。</p> <p>☆自分の考えを書き、考えをペア、グループ、全体で比較、関連付け、総合する場面を設定する。</p> <p>☆習熟度別クラスごとに指導計画を工夫し、計算技能、作図技能の定着を図る時間を確保する。</p> <p>☆ICTなどを用いて、思考の過程を見える化し、互いの考えを共有することで学習意欲を高める。</p>	<p>☆用語の定義や性質の理解を確実にする。</p> <p>☆理解度を確かめ、知識を定着させるための小テストを実施する。</p> <p>☆基礎・基本の学習プリントを繰り返し行う。 (東京ベーシック・ドリルの活用)</p> <p>★単元前に行うじゅんびテストの結果から、苦手な点、得意な点を、見つけ、それぞれ伸ばせるような指導の工夫をする。</p>
<p>低学年</p>	<p>☆ノートの取り方、学習用具の効果的な活用の仕方を身に付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定規の常用 ・赤鉛筆の活用 ・ノートのマスの利用 ・根拠を明らかにした記述 	<p>☆学習用具をそろえさせ必要な物と必要でない物を意識させる。</p> <p>☆ICTを用いて、児童の興味関心を高める。</p>
<p>全学年</p>	<p>☆繰り返すことで、力を付けさせる。(習慣化)</p> <p>☆学んだ知識を活用して問題解決学習に取り組めるように、導入で既習事項を想起させたり、掲示物で振り返ったりする。</p> <p>☆導入時にICTを用いることで授業への関心を高め、学習への意欲向上を図る。</p>	<p>☆学年に応じて、習熟度別に学習できるプリントを作成する。</p> <p>☆答えを確かめる習慣を身に付けさせる。</p> <p>☆知識を活用する問題に多く取り組ませる。</p> <p>☆学んだ知識をどのように活用したのかを説明できるようにする。</p>
<p>2 文章を読み解く方法を身に付けさせる。</p>	<p>☆文章題の読み取り方を指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指さし確認 ・キーワードさがし ・マークを付ける ・声を出して読む ・段階的な思考方法 ・問題の図式化 <p>☆多様な考え方を例示し、思考方法を教えたり、教材の提示</p>	<p>☆立式の意図、式の意味を言葉や文章で説明する場を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考え方、説明の仕方の教え合い ・生活場面に即した問題を活用する。 <p>★「どうなってるんだろう」と、読み取りたくな</p>

	方法を工夫したりして問題解決をさせる。	るような発問の工夫。 提示の順番や方法などの工夫。
--	---------------------	------------------------------

【理科】

指導上の方針	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 具体的な事象・現象を提示し、課題解決をさせる。	<p>☆直接体験や観察をすること、高速再生など動きある事象を提示して授業を展開する。</p> <p>☆具体物を使い、自ら立てた仮定が正しいかどうかの課題解決をできる助けとする。</p> <p>★情報量の多い事象・現象については、必要な情報を選んで考える力を身に付けさせ、調べたい事象を明確にする。</p>	<p>☆植物の観察、天体に関する観察は、家庭の協力を得て進めていく。</p> <p>☆設計を考え、工作による試行錯誤することで仕組みや特徴の利用方法についても考察させる。</p> <p>★必要な情報だけを取り出し関連付ける機会を授業の中で多く作る。</p>
2 観察・実験による検証能力を身に付けさせる。	<p>☆課題に対して、予想や仮説を立て、友達と考えを交流させる。</p> <p>☆自分の考察を書き、友達と考えを交流する場面を設定する。</p> <p>☆実験などで調べた表やグラフの数値の結果を基に、見比べたり、一定のきまりを見付けたりする。その中でデータから読み取る力を身に付けさせ、考察のまとめをする。</p> <p>★既習事項とのつながりを丁寧に抑えながら、グラフや資料を読み取ったり、実験結果を丁寧に考察させたりしていく。</p>	<p>☆結果を図や言葉、表、グラフに整理させる。</p> <p>☆何度も器具の取り扱いをさせることでその扱い方を理解し、器具に慣れ親しませる。</p> <p>☆実験結果から得られたデータをもとに、物の働きを理解し、さらにそのきまりを活用したりしようとする力を身に付けさせる。</p> <p>★読み取った実験結果を基に、それらにかかわる条件に目を向けながら、物の変化の規則性についての見方や考え方を養わせる。</p>
3 知識・理解を確実に身に付けさせる。	<p>☆現れた事象に対して、原因と結果を対照させ、物事の因果関係を示し、理解につなげる。</p> <p>☆ICT 機器などを通して映像や画像を提示することで、教科書以外の情報も紹介し、得られた知識・理解が活用できるような場面を作ったり示したりする。</p>	<p>☆プリントなどを使って学習内容の確認ができるようにする。</p> <p>★NHK などの情報番組などをたくさん活用することで、既習事項の知識のイメージを広げ、学習が興味深く積み重なるよう促していく。</p>

【生活】

指導上の方針	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
<p>1 具体的な活動や体験を通して、人や社会、自然との関わりに関心をもち、自分自身について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせる。</p>	<p>低学年</p> <p>☆学校探検や子どもまつり、昔遊びなどでは、異学年や地域の人々と直接コミュニケーションを図ることで、活動の楽しさを伝え合えるようにする。</p> <p>★コマ遊びでは、一緒に回して遊ぶ場を適切に用意することで、回る時間の長さや強さなどを競争させたり、違いを見付け、改良したりする時間を設定する。</p> <p>☆植物を継続的に栽培、観察し、生長の変化や気付いたことを絵や言葉や動作で表すことができるようにする。</p> <p>★観察カードやタブレットを活用し、植物の生長の変化とともに、自分自身の心や体の成長にも気付かせる。</p> <p>☆家族のことや自分でできることなどについて考える。お手伝い体験を通して、気付いたことや学んだことを、手紙や動作などで振り返る場を設定し、気付きを深める。</p>	<p>☆昔遊び体験や豆まき交流会などで感じたこと、気付いたことなどを交流し合う場を設定する。また、感謝の気持ちを手紙にして表現する場をつくる。</p> <p>★発見したことから、似ているところや違うところを「見付ける」「くらべる」「たとえる」などの学習活動を取り入れる。そして、それらを伝え合い、交流する。</p> <p>☆ICT等を活用してクイズを行ったり、アイデアを発表、共有し合う場を設定する。それらの活動を通して、自分自身の成長、他の人のよい考え方への関心を高めるようにする。</p>

【音楽】

指導上の方針	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
<p>1 歌唱活動の楽しさを味わうことにより、豊かな心情を育てる。</p>	<p>全年</p> <p>☆歌詞の内容や曲想にふさわしい表現ができるように発達段階に応じて工夫していく。</p> <p>★自分の思いをもち、どのように表現したら良いかを考えながら歌唱表現できるようにしていく。</p>	<p>☆ペア学習やグループ学習を取り入れながら、発声や呼吸、発音など基礎基本の定着を図る。</p> <p>★自分の思いを付箋に書き込み、友だちと交流しながら認め合い、共有していく。</p>
<p>2 器楽の活動や音楽作</p>	<p>☆各パートの役割を考えなが</p>	<p>☆音色の組み合わせや強</p>

<p>りを通して、友達と協力して演奏する喜びを味わわせる。</p>	<p>全学年</p>	<p>ら、表現を工夫できるようにする。</p> <p>☆旋律パートと伴奏パートのバランスを考えながら合奏する。</p> <p>★旋律の特徴や強弱など曲想に合った演奏ができるようにする。</p>	<p>弱を工夫し、いろいろな演奏の仕方を試してみる。</p> <p>☆いろいろな視聴覚教材を取り入れ、表現活動がより豊かにできるようにする。</p> <p>★友達同士で演奏をアドバイスし合ったり、教え合ったりしながら工夫する。</p>
<p>3 鑑賞の活動を通して、楽曲や演奏のよさを見だし曲全体を味わって聴けるようにする。</p>	<p>全学年</p>	<p>☆楽曲を聴いて想像したことや感じたことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くようにする。</p> <p>★曲想と音楽の構造に気付くようにする。</p>	<p>☆児童の発言を板書にまとめ、感じたことと、音楽の特徴を整理して分かりやすくする。</p> <p>★2つの違う曲を聞き、比較しながらそれぞれの曲の特徴を見つける。また、友だちと交流しながら、いろいろな感じ方を知る。</p>

指導上の方針		具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 創造的に表現したり鑑賞したりすることを楽しめる心情を育てる。	全学年	<p>☆発達段階に合った題材、関心を高めるための導入を工夫する。</p> <p>★鑑賞時にも、発達段階に合わせて視点を定め、鑑賞に生かせる言葉を掲示して活用できるようにする。</p>	<p>★実施する題材と特に関わりのある掲示物や作品など、造形的感覚を刺激することが予想されるものを、図工室やその周辺に配置し、児童の造形的見方による関心を育む。</p>
2 発想を豊かにして表し方を工夫する造形的な能力を育てる。	全学年	<p>☆自分の感覚や行為を通して表したい色や形を思いつくよう、手や体全体を十分に働かせて発想につなげる活動を取り入れる。</p> <p>☆自分との対話、材料との対話、友達との対話活動を設定し、発想・構想の能力を育てる。</p>	<p>☆作品を廊下にかざり多くの児童が見る機会をつくり、発想のきっかけをもちやすくしたり、お互いのよさを認め合ったりすることを促す。</p> <p>☆題材に対する意見交換や材料を自分で選ぶ場面を多く作り、発想・構想の能力を育てる。</p>
3 親しみのある作品などから、よさや美しさを感じ取りそれらを大切にすることを育てる。	全学年	<p>☆鑑賞の授業や鑑賞をもとにした作品作りを授業計画の中に位置付ける。</p> <p>☆お互いの作品を見合う活動を多く取る。</p>	<p>☆普段の授業の中でお互いの作品や身近な作品を見ることを楽しみ、多様な考えや感じ方表し方があることに気付かせる。</p> <p>★感じたことを表現したり交流させたりする力を育むため、鑑賞に生かせる言葉を図工室内に掲示する。</p>

【家庭】

指導上の方針		具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 家庭生活を大切にすることを育てる。	高学年	<p>☆衣食住などの生活の営みの大切さに気付かせるため、家庭との連携を図る。</p>	<p>☆国語、社会、理科など他教科と関連させ、学びを発展させる。</p>
2 生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。		<p>★具体的な実践を文章や写真で表し、伝え合う場面を設定して家庭生活について交流し合うことで改めて考えさせる。</p>	<p>☆家庭と連携し、実践的・体験的な学習活動を設定する。</p>

【体育】

指導上の方針		具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 基本的な動きや技能を身に付けさせる。	全学年	<p>☆技能のポイントがわかる資料の提示をし、課題が明確になるようにして、自分に合った課題を見つけ運動できるようにさせる。</p>	<p>☆個々の課題や運動の特性に合った場や用具を用意し、適切に選べるようにさせる。</p> <p>☆ICTを活用し、自己の課題を明確にし、課題解決を援助できるようにする。</p> <p>☆学習カードを活用し課題の設定、ふり返りを行い、次時の学習へと繋げていく。</p>
2 健康・安全について理解させる。	中・高学年	<p>☆身近な生活における健康・安全についての学習課題を発見し、解決する過程を通して、健康・安全の大切さに気付かせる。</p>	<p>☆グループ学習を通して、学習課題の発見と解決の手だてについて交流させる。</p>
3 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる。	実施学年	<p>☆オリンピック・パラリンピックについてゲストティーチャーなどを招き関わることで、スポーツの意義や価値等に気付かせる。</p>	<p>☆オリンピック・パラリンピアン等を招聘し、スポーツの意義や価値を学ばせる。</p>
4 健康の保持増進と体力の向上を図る。	全学年	<p>☆体力・運動能力調査を分析し、学年ごとの課題を明確にし、各単元でのねらいを再構成する。</p> <p>☆泳力を付けるための指導法の共有化をする。</p> <p>★体力テストで課題になっている投力・持久力・俊敏性などを向上させるのための遊びや運動の工夫を行う。</p>	<p>☆児童一人一人の体力に合った課題をもたせて、力いっぱい運動できるような手だてを取る。</p> <p>★体育の授業のみでなく、休み時間の例年行っている「なわとび旬間」「持久走旬間」に加え、「十輪ピック」を行い、体力テストの項目に合った運動能力の向上を目指した遊びや運動を日常的に行えるように推進する取り組みを行う。</p>

【外国語活動・外国語】

指導上の方針		具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 言語や文化についての気付きを促し、外国語の表現に慣れ親しませる。	中・高学年	<p>☆「Let's Try」「We can」の「Let's Listen」「Let's Chant」などを活用し、外国語の表現に興味・関心をもたせる。</p> <p>★絵本や場面絵を使って、音声と画像を結びつける。</p>	☆英語だけでなく、様々な国の言語に触れる活動を取り入れる。
2 コミュニケーションをとることの楽しさや大切さに気付かせる。	中・高学年	<p>☆「Activity」を活用し、慣れ親しんだ外国語の表現を使ったコミュニケーションの場を設定し、その楽しさや大切さに気付かせる。</p> <p>★場や状況を設定してコミュニケーションを行うことで、相手に伝えることを意識したコミュニケーションをとる事の楽しさを実感させる。</p> <p>☆中学校との連携を進め、中学校英語教員とのTT授業を行い、外国語で学んだことが中学校でも生かされることを実感させる。</p> <p>☆タブレットを活用し、外国の暮らしなどが紹介されているコンテンツなどから、文化の違いに気付かせる。</p>	★教師やALTだけでなく、外国語を用いて相手に配慮しながら児童同士のコミュニケーションをとることのできる場を設定する。